

令和5年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標 【目指す児童像】	◎ 考える子【学習や生活のいろいろな場面で、本気、根気の持てる子。正しく判断し、創意工夫する子】 ○ 思いやりのある子【人と協働することに喜びをもち、協力し合える子】 ○ 健康な子【元氣な心や体をつくる子】	目指す学校像★ 目指す教師像○	★楽しく、力のかつ学校【楽しさが子供の可能性を開く。授業改善で生きる力を育む。】 ★いじめのない、安全・安心な学校【安全第一。人権第一。学校事故0を目指す。】 ★社会性を育て、自己肯定感を伸ばす学校【人との関わりの中で、自分の良さに気付かせる。】 ★地域や保護者に信頼される学校【奉仕的精神と迅速な対応で子供第一の開かれた学校を目指す。】 ○子供の可能性を信じぬく教職員○子供を認め、褒め、伸ばす教職員○プロとして持続的に授業改善に挑戦する教員○公私をわきまえ、公務員として組織的に行
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>基礎基本の定着に向けた取組。「主体的、対話的で深い学び」の全教科での実施。授業の工夫、改善に向けての取組。体力向上に向けての取組。学校の安全管理体制の継続。 <課題>基礎基本の定着及び「主体的、対話的で深い学び」のさらなる実践。児童の体験的活動、自主活動(あいさつ運動等)のさらなる推進。健全育成に関する取組の周知。特別支援教育の一層の促進及び保護者への周知。		

教育委員会 重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「誰一人取り残さない」学力向上アクションプラン」による授業改善、二小スタンダード(学習のきまり)徹底…全学年、毎日 ・一人一台端末による「ドリルパーク」の推奨、朝学習や江戸っ子study weekでの取組…全学年 ・計算力向上のための2年生以上の「がんばるプリント(計算タイムチャレンジ)」の実施…毎日 ・ALTの効果的活用…毎週 ・放課後補習教室(外部委託)との連携、放課後補習(スッキリタイム)の実施…全学年 ・算数少人数指導による個に応じた指導の充実…毎日 ・保護者ボランティアの協力による基礎タイムの実施	・ベーシックドリルによる検証各学年平均10ポイントアップ ・ドリルパーク2000ポイント以上(1年生は1000ポイント以上) 80%以上 ・全校がんばるプリント選手権年5回実施 ・保護者満足度90%以上 ・スッキリタイム年35回実施率100% ・江戸っ子study week、家庭学習強化週間年3回実施…全学年 ・基礎タイムの年間実施	A	B	・1学期末に実施した結果、1学期始めの結果と比べてどの学年も10%以上正答率がアップした。 ・計画的に実施している。年度末に2000ポイント以上を超える予定である。 ・1学期に2回実施した。 ・1学期のアンケート結果について肯定的な回答は90%を超えている。 ・スッキリタイムは1学期10回実施した。 ・家庭学習強化週間は9月までに2回実施した。 ・基礎タイムは毎週実施している。	B	・家庭学習が身に付くという、家庭環境によって学力差が大きいように感じる。学力向上のために引き続き指導をしてほしい。 ・授業改善の推進が目に見える形で効果を上げている。家庭での取組も強化し、充実してほしい。 ・様々な取組に意欲を感じる。児童の身の回りの整理整頓が促されると、学びに向かう機会が増えると思う。	・2学期、3学期末にも東京ベーシックドリルのテストを行い、基礎基本の定着度合いを確認していく。 ・タブレットを利用した授業内の学習、家庭学習をより充実させ、学力差を埋めていく。 ・朝の基礎タイム、放課後補習教室やスッキリタイムを通して、習熟に遅れのある児童の学力を向上させる。また、4・5年生には「九九歌」を、2・3年生には「九九名人」の取組を2学期より行い、学力の確実な定着を目指す。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科年間計画に基づく探求的学習実施…毎学期 ・朝読書の実施、読み開かせボランティア等の活用…毎週 ・学校図書館司書の活用、図書館の整備、蔵書の適切な管理…月2回 ・読書週間の実施による読書意欲の喚起…年2回	・読書科年間計画実施率100% ・保護者満足度90%以上 ・朝読書毎週2回以上、及び読み開かせボランティア等による読み開かせ年間実施 ・読書週間児童参加率100% ・学校関係者評価A	A	B	・計画の通り実施している。 ・1学期の肯定的回答は80%だった。 ・毎週計画的に、朝読書、読み開かせボランティアを行っている。 ・春の読書週間は欠席者を除く全児童が参加できた。10月に秋の読書週間を実施予定。	A	・読み開かせは楽しめても、自分で読むという習慣がなかなかつかなかった。 ・年間を通して、読書による探究的な学習が充実している。 ・ICT活用による活字障壁の抑止に努めて頂きたい。読むことに関して、個々の想像力が育まれるような環境を期待している。	・継続的に、朝読書、読み開かせボランティアを行い読書習慣の定着を図る。 ・読書科の年間指導計画に基づき、探究的な学習を実施していく。 ・引き続き、公共図書館(小岩図書館)との連携を深め、図書館や学級文庫の整備、充実を図る。
	<巡回指導の充実> ・関係教員等の適切な連携による指導の充実	・巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員及び各担任との情報共有、個別指導への活用…毎日 ・保護者への理解の促進、PR…毎学期	・情報共有実施率100% ・当該保護者満足度90%以上	A	B	・特別支援教室専門員が中心となり、関係職員と適切な情報共有ができています。 ・保護者アンケートによる肯定的回答は75%だった。	A	・保護者の認知や理解が増加することを願う。 ・児童一人一人に差異があるため、難しい対応が多いと思うが、本校はしっかりと対応している。	・当該児童が学級の中で落ち着いて学習できるように、担任と巡回指導教員が密に連携をとっていく。 ・保護者への理解の促進のため機会があるたびに、情報提供をしていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・二小タイム(運動遊び)の実施…毎週 ・児童の主体性重視の体育授業、補助運動の実施…全校級 ・外遊び、縄跳びの奨励…通年 ・各学期の行事(運動会、持久走大会、大縄大会)及び練習期間の設定、継続実施…毎学期 ・小岩二小、稲五小、南小岩小校による食育での小中連携…毎学期	・二小タイム等実施率100% ・保護者満足度90%以上 ・各行事及び練習期間実施率100% ・食育の促進、よつばメニュー実施率100%	B	B	・二小タイムは、雨や熱中症アラートにより実施できない日が多かった。 ・運動会の保護者アンケートでは肯定的回答をする保護者は90%以上あった。 ・よつばの会を毎月実施し、食育の連携を図っている。	B	・コロナの影響が大きいが、体力向上の取組をしっかり行っていたように感じる。また、体力テストの結果をもとに、実施する運動も変更していくことで、体力向上を図っていく。 ・よつばの会による食育の連携も、引き続き行っていく。	・2学期、3学期は計画的に、二小タイムの実施ができるようにしていく。また、体力テストの結果をもとに、実施する運動も変更していくことで、体力向上を図っていく。 ・よつばの会による食育の連携も、引き続き行っていく。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備及び個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副読交流、交流及び共同学習の実施・充実	・「共生社会実現にむけた教育の推進」における地域人材、外部人材の活用…年2回 ・ユニバーサルデザインの視点での学習環境整備…全校 ・ユニバーサルデザインを視点とした校内研究…年9回実施 ・支援サービスによる個に応じた対応…全対象児童 ・エンカレッジルーム(にこにこルーム)の効果的活用…通年 ・副読交流等の計画的実施…全対象児童	・「共生社会実現に向けた教育の推進として、伝統文化理解教育・障害者理解教育における人材活用計画(作り)年2回実施 ・教室環境、言語環境整備100% ・対象児童保護者の満足度90%以上 ・保護者への周知70%以上 ・副読交流等の実施率100%	A	B	・2学期に、バレー選手権、能楽師を外部講師に招き、共生社会に向けた教育を行う。 ・ユニバーサルデザインは公立学校全てであると感じる。子供たちにも多様な機会が提供されることで、未来の社会につながることを期待する。 ・エンカレッジルームを活用している保護者へのアンケートを今後実施する予定である。 ・保護者やや面談等、機会があるたびに周知をしている。 ・鹿本学園との副読交流を計画的に実施している。	B	・保護者への周知は毎年低いと感じる。共生社会の体験の少ない保護者なので仕方ないが、未来に向けて指導をしてほしい。 ・ユニバーサルデザインは公立学校全てであると感じる。子供たちにも多様な機会が提供されることで、未来の社会につながることを期待する。	・実施を予定している取組について、学校便りや、tetoru、ホームページ等を利用し、可能な限り情報発信をしていく。 ・校内研究を通じて、ユニバーサルデザインを視点とした授業づくりを推進していく。 ・外部機関との副読交流を通して、共生社会の実現に向けた教育を続けていく。
共生社会の実現 に向けた教育の 推進	<体験的活動、自主活動の推進> ・児童の体験的活動及び自主活動の促進による豊かな心の育成	・異学年交流(たてわり班、きょうだい学級)の実施…毎学期 ・全校情報朝会実施…毎月 ・高学年全員による鼓笛隊の実施…通年 ・あいさつ名人、あいさつ隊等挨拶運動…通年	・異学年交流年間計画実施率100% ・高学年鼓笛隊全員参加、区民祭9等への参加 ・挨拶運動通年実施の継続 ・保護者満足度90%以上	A	B	・計画的に、異学年交流を行っている。11月の全校遠足に向けて、2学期も交流を深めている。 ・5年生の鼓笛隊が、10月の区民まつりに参加予定。 ・あいさつ名人の活動は継続して行っている。 ・挨拶や行動面について85%の保護者が肯定的回答をしている。	A	・体験する機会が増えることで成果も上がることを願う。 ・異学年交流の年間実施率100%が素晴らしい。年間の行事がよりスムーズに実施されていくと期待している。 ・あいさつ運動が始まり毎年感じるが、昨年度に増して児童からのあいさつを受ける機会が増えている。	・異学年交流は年間を通して計画的に行っている。 ・あいさつ名人の活動は、年度末にはステージまでのあいさつができる児童が70%を超えるように取り組んでいる。
	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・Hyper-QUの活用	・「Hyper-QU」の実施及び効果的活用、道徳教育の充実、いじめ防止授業の実施…全校級 ・校内委員会の効果的実施、全職員での支援体制の構築…毎月 ・特別支援教育に係る教員の指導力向上に向けた研修会の実施…年3回	・校内委員会毎月実施、対象児童への実施率100% ・保護者への周知70%以上 ・特別支援研修会に参加率100%	A	B	・Hyper-QUの活用、道徳、いじめ防止の授業は全校級が行っている。 ・子供の健全育成に関する取組について、保護者やや面談、ホームページ等での全ての保護者に周知している。	B	・新しい取組もあるようなので、健全育成に役立つことを期待している。 ・外からは見えない部分だが、児童たちにとっても大事な取組をしていると思う。	・Hyper-QUの結果を受け、児童にとって居心地のよい教室になるように、学級経営を行っている。 ・特別支援研修会で学んだ内容を、日々の授業や学級経営に生かしている。
子どもたちの健全 育成	<関係者機関との連携によるいじめ、不登校等への対応> ・生活指導連絡協議会での情報共有 ・いじめ、不登校の未然防止、早期解決に向けた対応の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携、適切な活用…毎週 ・課題把握時点での情報共有、生活指導連絡会、各課題対策委員会の実施…毎週、適時 ・SNS東京ルールの徹底、家庭SNSルールでの家庭との連携…通年	・情報共有率100% ・当該保護者満足度90%以上 ・事実把握後1週間以内に行動、成果の確認 ・SNS東京ルールの活用、家庭におけるSNSルールの策定、保護者との連携100%	A	B	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと綿密な連携を行い、情報共有ができています。 ・当該保護者との連絡・調整も行い、適切な対応がとられており、保護者は満足している。 ・生活指導主任、管理職への素早い報告があり、1週間以内に対応できている。 ・校内ルールの見直し、周知を行った。	B	・子供たちを取り巻く環境も複雑で、子供同士の関係も難しいので、引き続き早期対応をお願いしたい。 ・子供たちの健全育成に向けた様々な取組への効果が形に現れ、保護者の信頼・安心感につながっていることを期待している。 ・児童一人一人に差異があるため、難しい対応が多いと思うが、本校はしっかりと対応している。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を取り、問題の早期発見、改善へ向けて対応をしていく。 ・引き続き、学年主任、生活指導主任、管理職への報告・連絡を徹底し、素早い初期対応ができる関係を構築していく。
	<地域との共育・協働> ・学校情報の積極的発信 ・学校応援団を始めとする地域人材、外部人材との連携	・ホームページ等による情報公開…毎週 ・学校応援団との連携…毎月	・保護者満足度90% ・ホームページ等による情報発信率100% ・学校関係者評価A	B	B	・各学年月2回以上、ホームページによる情報公開を行った。また、tetoruにて必要な情報共有を行っている。	A	・地域イベントが開催されてきており、地域との関わりが増えるのに積極的に参加してほしい。 ・子供の自己肯定感を高められるための工夫・試みを聞いて、益々素晴らしい学校になることを確信した。 ・外部発信の積極性を高く評価している。	・引き続き、tetoru、ホームページ等を利用し、可能な限り情報発信をしていく。ホームページの更新が、学年によって差異があるため、どの学年も同じレベルで発信できるように、管理職から声かけをしていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・「教育関係者の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校経営方針の保護者、学校関係者への周知…年度当初 ・保護者アンケートの実施、結果の周知…各行事実施後、年2回の結果周知 ・教職員及び学校関係者中間評価による方針の修正及び追加、年度末評価の実施による次年度改善策の立案…9月2月	・各保護者アンケート実施後の結果周知1か月以内 ・学校関係者評価に係るPDCAサイクルの年間実施 ・保護者の満足度80%以上 ・学校関係者評価A	A	B	・アンケート結果の周知を1か月以内(夏季休業を除く)に行ってきた。2学期以降は1か月以内の周知を行っている。 ・学校評価委員会を開き、関係者評価を行っている。	A	・学校の様子を見る機会が増えてきたので、積極的に参加したい。 ・学力・体力の向上を目指す中、子供たちへの温かい「眼差し」を強えている。地域や保護者の信頼につながる。 ・受信者(保護者)にアンケート(興味)を抱かせることの重要性を	・3学期も保護者アンケートの結果を1か月以内に周知する。 ・1月の学校評議員会において、関係者評価を行い、新年度の計画を作成していく。
	<学校における働き方改革プラン> ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 ・組織力の向上	・C4thの積極的活用、ペーパーレス促進…毎日 ・文書起草、各分掌ルートによる進行管理…各分掌長 ・会議の効率的な実施及び時間短縮(15分以内)…毎月 ・スクールサポートスタッフ等の有効活用…全学年 ・定時退勤日の実施…月2回・教科担任制の推進、協働体制…全学年 ・育児休業等休暇、休業制度の活用促進…全職員(男性含む)	・C4th利用率100% ・文書起草の継続実施率100% ・会議の時間短縮15分以内を達成できている。 ・スクールサポートスタッフの活用100% ・全教員の残業時間月40時間以内 ・休暇、休業制度の教職員への周知100% ・保護者満足度90%以上	A	A	・全職員がC4thを活用できている。 ・各分掌長が指揮をとり、文書起草を行っている。 ・経営支援会議15分以内を達成できている。 ・スクールサポートスタッフ、副校長補佐、事務補助等効果的に活用している。 ・70%の職員が残業時間45時間以内を達成している。 ・11月に男性職員が見学休暇を取得予定。	A	・働き方改革が進んでいるようだが、子供たちにとってのメリット面があるのだから。 ・気の向くままに学校に向っているが、いつも学校空間に和やかさを感じている。	・引き続き、人材を探し、時間講師の導入による校務軽減を図る。 ・今年度中に実施できる改善策は、年度内に実施し、働き方改革を進めていく。 ・月の残業時間が45時間を超える教員へは引き続き、声かけをしたり相談に乗ったりして、残業時間の軽減を図っていく。
特色ある教育の 展開	<教員の授業力の向上> ・校内研究の活性化 ・教員研修のさらなる充実 ・ICTの効果的活用	・週ごとの指導計画に基づく教育活動の計画的実施及び反省の記載…毎週 ・「主体的、対話的で深い学び」全教科で研究、実施、管理職の授業観察による検証…全教員 ・ICT関連教員研修会…年5回 ・各授業におけるICTの効果的活用…毎日	・週ごとの指導計画活用率100% ・校内研究授業実施、区小教研全教員参加100% ・ICT研修会実施率100% ・1学期に5回のICT研修を行い、ICT機器の活用率を上げている。 ・保護者満足度90%以上	A	A	・全職員が週ごとの指導計画を作成し、実施している。 ・校内研究、区小教研は全職員が参加している。 ・1学期に5回のICT研修を行い、ICT機器の活用率を上げている。	A	・教員のなり手が少ないという現状がとても心配で、不安である。 ・タブレット導入後、子供たちのスピード感がぐんと上がったように感じる。そのような時代でも、言葉による教育を切望する。	・ICT研修、校内研究、区小教研には毎回参加をし、授業力の向上を図っている。